

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした
大学と地方公共団体における連携事業の成果と課題
—自転車競技ロードレースに着目したトークイベントを事例として—

Results of and issues with collaborative projects between
universities and local governments prompted by
the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games :
A case study of talks and exhibition focusing on road cycling races

増本 達哉*, 青柳 秀幸**, 田原 淳子*

Tatsuya MASUMOTO, Hideyuki AOYAGI and Junko TAHARA

Abstract

The purpose of this study was to ascertain the results of and issues with talks and exhibition organized by Kokushikan University and the City of Tama and approved by the Tokyo Organising Committee of the Olympic and Paralympic Games. The content of those talks, exhibition and an analysis of a survey of attendees revealed the following findings.

97% of the survey respondents answered “I was very satisfied” or “I was satisfied” with the talks. In addition, 94.2% of the respondents answered that their attendance greatly increased their understanding of road cycling races. Accordingly, the talks were able to greatly contribute to attendees’ demands and expectations by conveying the appeal and enjoyment of road cycling races and the highlights of the course in the City of Tama. In addition, all of the attendees expressed interest in at least one of the items on exhibit.

Key words; Tokyo Olympic and Paralympic Games, university, local governments, collaborative projects

1. 緒言

第32回オリンピック競技大会（2020／東京）
及び東京2020パラリンピック競技大会（以下、

「東京2020大会」と略す）の開催決定以降、日本
では、同大会の開催を契機に多様な取り組みやイ
ベントが展開・開催されている¹⁻³⁾。また、東京
オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員

* 国士舘大学体育学部 (Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

** 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 (Graduate School of Sports System, Kokushikan University)

会（以下、「大会組織委員会」と略す）は、東京2020大会参画プログラム^{注1)}に延べ97,464,630名が参加したと報告している（2019年12月15日現在）⁴⁾。こうした中で、体育・スポーツを専門とする大学や専門知識を有する者は、東京2020大会の機会を捉えて如何にしてその役割を担うことができるのだろうか。

体育学研究領域における国内最大の学術研究団体である日本体育学会は、2015年に「東京オリンピック・パラリンピックと大学連携」と題するシンポジウムを開催した。そこでは、東京2020大会開催決定を機に、「体育・スポーツへの無関心やそれらに関わる偏った知識から脱却し、オリンピック・パラリンピックや体育・スポーツに関

する知識がその専門研究機関・教育機関だけでなく、一般教養、一般体育にわたる横断的な知識の定着につながること」⁵⁾を目指して議論が展開された。実際、東京2020大会の招致が成功した2013年以降、“オリンピック”をキーワードとしたイベント・シンポジウムの開催に関する学術情報は増加傾向にあることが、「CiNii Articles」におけるキーワード検索調査より明らかである（図1、図2）。しかしながら、そこには、体育・スポーツ系大学と地方公共団体との東京2020大会に関する連携事業についての学術情報は管見の限り見られなかった。また、大会組織委員会のホームページに掲載されている参画プログラムの実績紹介にも、体育・スポーツ系の大学と地方公共団

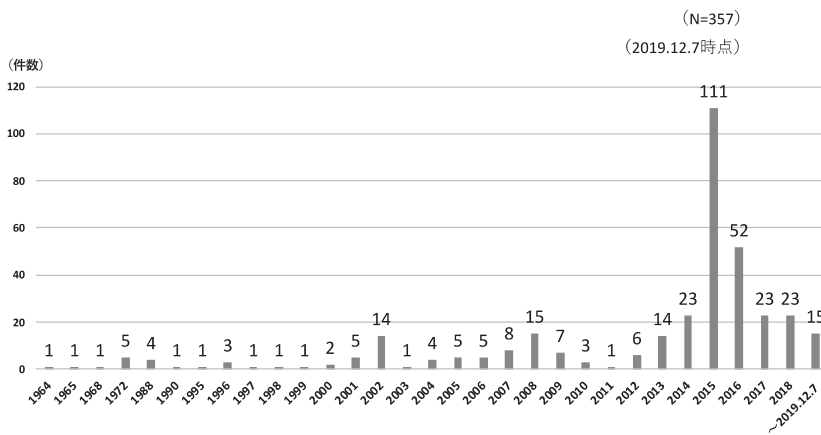


図1 「CiNii Articles」におけるキーワード検索の結果①
キーワード：オリンピック シンポジウム

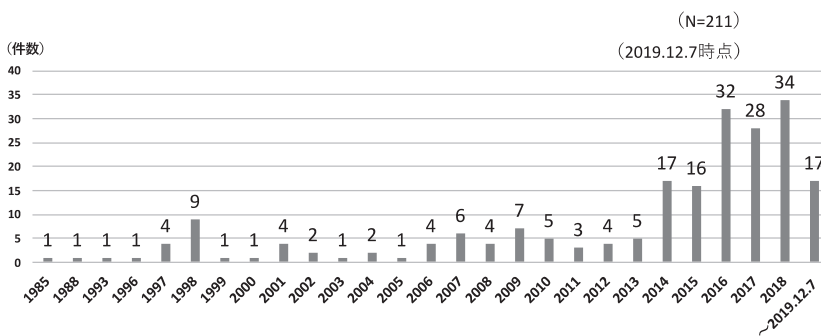


図2 「CiNii Articles」におけるキーワード検索の結果②
キーワード：オリンピック イベント

体によるプログラムはほとんど見られず、その紹介内容は概要のみであった^{6,7)}。

開かれた地域社会を志向する東京都多摩市と、当地に体育学部が所在し地域社会への貢献を図る学校法人国士館は、2003（平成15）年に基本協定を締結し、互いに連携して事業を進めてきた。両者は、2016（平成28）年11月24日には、東京2020大会に向けた一層の連携強化を図る目的で、新たに「多摩市と国士館大学との東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組に関する連携協定」を締結した。その主たる連携及び協力内容は、1）オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの推進及びオリンピック・パラリンピックレガシーの継承、2）東京オリンピック・パラリンピックを契機とした健康づくり活動での連携、3）東京オリンピック・パラリンピックに関わる教育的分野での連携^{8,9)}である。

そこで本研究では、国士館大学と多摩市が大会組織委員会公認プログラムとして主催した「東京2020オリンピックに向けた“自転車ロード競技の魅力に迫る”トークイベントin TAMA ～世界のONEKANオリンピックへの快走」（以下、「トークイベント」と略す）（2019年3月16日（土）、於パルテノン多摩）を対象に、その成果と課題を明らかにすること目的とした。

2. 研究の方法

- (1) トークイベント（トークショー及び特別展）の開催経緯や内容を整理した。
- (2) トークイベント参加者にアンケート調査を実施

し、その結果を分析した（表1）。

- (3) 本トークイベントの成果と課題を考察した。

3. トークイベント主催の背景

大会組織委員会は、国際自転車競技連合（UCI）の承認を得て、東京2020大会における自転車競技ロードレースのコースを決定、発表した。武蔵野の森公園よりスタートし、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県内を通り、富士スピードウェイにゴールするコースの総距離は男子約244km、女子約147km、獲得標高（スタートからゴールまでの上った標高の合計）は男子約4,865m、女子約2,692mである¹⁰⁾。この自転車競技ロードレースは、多摩市内において唯一開催されるオリンピック競技種目となった。こうした背景から、国士館大学と多摩市は、冒頭に述べた連携協定に基づき、自転車競技ロードレースの魅力や楽しみ方を多摩市内において発信するトークイベントを開催することにした。

4. トークイベントの内容

トークイベントは、2019年3月16日（土）のトークショー及び同16日（土）、17日（日）の特別展によって構成された（別紙：チラシ参照）。

4.1 トークショーの内容

トークショーへの事前申し込み者数は、定員250名のところ240名余りであり、当日には170名が参加した。ゲストには、沖美穂氏と土井雪広

表1 アンケート調査：実施方法

アンケート調査：実施方法					
	実施日時	配布・回収方法	対象者・対象者数	回収枚数	回収率
トークショー	2019年3月16日（土）	入場時に全参加者へ配布し、退場時に回収した。 なお、記入・回答は参加者の任意とした。	170名	138枚	81%
特別展	2019年3月16日（土） 17日（日）	展示会場に設置（配架）し、退場時に回収した。 なお、記入・回答は参加者の任意とした。	16日：213名、17日：105名	138枚	43%

氏の2名を招聘した。沖氏は、2000年シドニー・2004年アテネ・2008年北京夏季オリンピック競技大会に出場し、全日本自転車競技選手権大会11連覇、日本人女性初のプロ自転車ロードレーサーとして海外チームにおいても活動経験がある日本の第一人者である。一方の土井氏は、世界三大自転車ロードレースの一つであるブエルタ・ア・エスパーニャ（スペイン）に日本人として初出場、全日本自転車競技選手権大会優勝、国内最高峰ツアー「Jプロツアー」のチーム年間総合優勝へ貢献したトップレーサーである。

トークショーの内容は、多くの人々が自転車や自転車ロードレースに興味・関心を抱けるよう、自転車ロードレースの魅力や楽しみ方、多摩市内のコースの見どころに焦点が当てられた。実際に展開されたトークの内容は、(表2)の通りであ

る。会場では、配布資料として、多摩市が作成した市内の見どころを挿入したマップと自転車ロードレースに関する専門用語集が配布された。

4.2 トークショーに関するアンケート調査結果とその分析

(1) 参加者の属性

参加者は、女性に比べて男性が多く、65.9%を占めた(図3)。年代別では、50代が最も多く25.4%であり、40代～70代の参加者が全体の85.5%を占めた(図4)。

(2) 広報活動の有効性

本トークイベントを知った媒体として最も多かったのは『たま広報』であり、40%を占めた(図5)。その次に多かったインターネットは、当初

表2 トークショーの内容

序盤	沖氏	A	・オリンピック競技大会におけるロードレースは、テレビ中継などを通じて他国の人々がその国や都市を認知できるように、初日に競技が開催されること ・ロードレースは個人種目とされるが、実際には複数人で隊列を組んで風を避け、故障した自転車の復帰作業を協力して行うなどチーム種目としての要素が含まれていること
		B	・日本代表として出場したが、以前から共に練習していたオランダチーム金メダル候補が落車してしまい、復帰するまで後方で待っていたこと
		D	・猛暑が予想されるので観客も含めた対策が必要であること
中盤	沖氏・土井氏	C	・事前に撮影した多摩市内のコース動画と共に、コースの特徴やおすすすめ観戦スポットを解説
	土井氏	C	・大会の記念として写真撮影を希望する際にはゆるい上り坂が適している ・プロの技術を見ようとする際にはコーナリングが多い箇所が適している ・多摩市内コースにはコーナーが多いため、選手としては駆け引きをしやすい場所となっている ・多摩市内コース後半には、選手の水分補給や食事を摂る光景が見られるかもしれない
	フロアからの質問	A	・自転車の価格、タイヤ等の交換方法 ・ステージレースと呼ばれるツールドフランスの駆け引きと、1 DAY (ワンデイ) レースとの駆け引きの違いについて
終盤	沖氏	B	・オリンピック期間中には休戦制度が設けられていること、また、戦争の最中にある国や豊かとは言いがたい国もオリンピックに参加していることを踏まえ、オリンピックを楽しむだけではなく、そこで感じた事柄を参加者のみなさん自身の生活につなげてほしい ・ロードレースに関心を寄せてくださったことへの感謝
	土井氏	B	・子どもたちや若い人たちに、オリンピックを機会に自転車のことを好きになってほしい ・多摩市は日常的にサイクリングのスタート地点、集合場所となることが多いことを踏まえ、多摩市が自転車の町となることを期待している
	増本	D	・オリンピック競技大会のテストイベントに関する情報について
汎用			
A: 自転車やロードレースの知識 B: ゲストの体験・期待など C: 多摩市内コースの見どころ・楽しみ方 D: その他の情報			

参加者数が振るわなかったことから、より専門的な興味・関心のある層へ情報を発信するためにプレスリリースサイトを活用したものである。

(3) トークショーに参加した理由

本トークショーに参加した理由として最も多かったのは、「多摩市がオリンピック自転車ロード競技のコースに決まったから」であり、28.1%

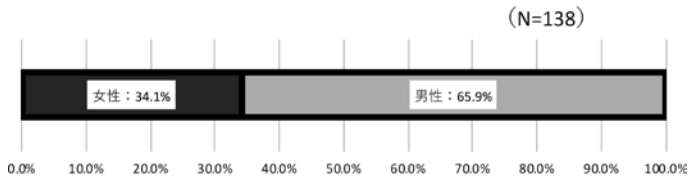


図3 参加者の性別比

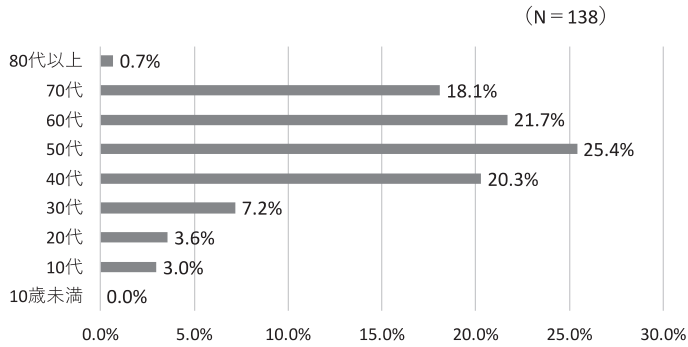


図4 参加者の年齢層

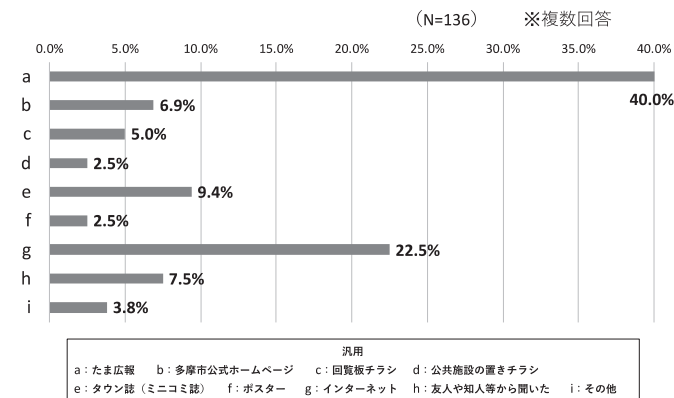


図5 広報活動の有効性

を占めた。その次に多かったのは、「自転車競技に興味があった」(20.8%)、及び「市内コース付近に住んでいるから」(20.5%)であった(図6)。

(4) トークショーに対する満足度

本トークショーに対する満足度として最も多かったのは、「満足できた」であり、56.3%を占めた。「大変満足できた」とする回答と合わせる

と、全体の97%を占めた(図7)。

(5) トークショー参加後の自転車ロードレースに対する理解度の変化

自転車ロードレースに対する理解度の変化として最も多かったのは、「深まった」であり、55.1%を占めた。「大いに深まった」とする回答と合わせると、全体の94.2%を占めた(図8)。

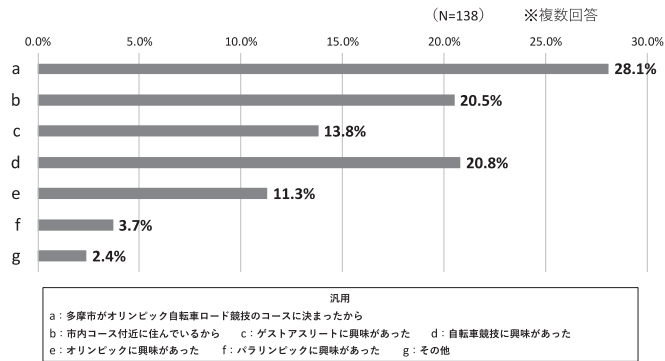


図6 トークショーに参加した理由

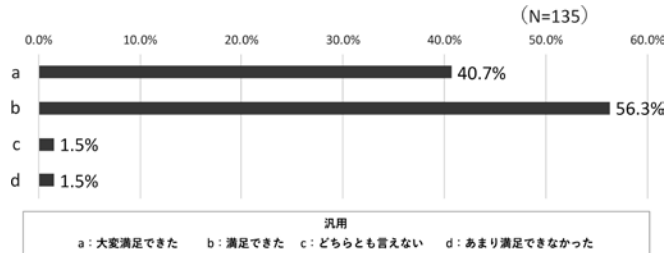


図7 トークショーに対する満足度

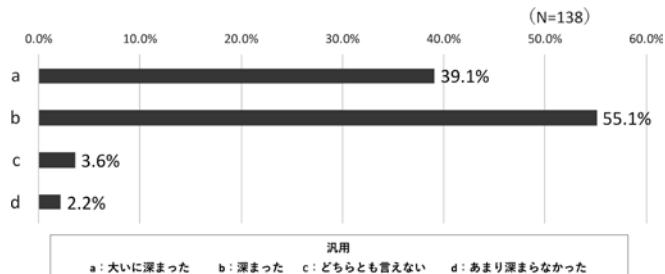


図8 自転車ロードレースに対する理解度の変化

- (6) トークショーに参加して印象に残ったこと及び
 その他の意見や感想
 参加者が本トークショーに参加して印象に残った
 ことを集約・分類し、(表3)に示した。また、
 本トークショーに対するその他の意見・感想や、
 今後のイベントで話を聞いてみたいアスリート、
 競技等々を集約・分類し、(表4)に示した。

表3 トークショーに参加して印象に残ったこと (本人記述のまま)

コースに関すること	
・多摩市内のコース	・多摩市が重要部分にあることがわかった
・東京区間の最長ルートであること	・競技選手としての視点説明
・コースがきれいと言われていたところ	・多摩市内のことがよくわかりました
・多摩市コースのフィルム上映	・走るルート等よくわかった
・市内のコースの見どころの説明	・コースがいせつ あぶないところなどがわかった
・多摩市内のコース動画は非常に良かった	・ビデオに映され走るコースが解りやすかった
・コースのビデオが参考になった	・コース動画
・コースの映像を見せていただけただけでも良かった	・多摩市内のコース案内と解説
・多摩市がキーになるコースがあること	・カーブが多い・住宅街(けっこう道がわるい)を走る
・尾根幹区間が意外と短い	・沿道での盛り上げ方(お店や屋台を出して観戦者をおもてなしする話)
・道路が危うい所が多いとの話-対策はどうするのか	・市内ロードの危機対策を今後どうするのか
・多摩市内のコースを走るレース展開の見所が良かったです	・コースが複雑すぎてよくわからない
・オリンピック後もロードレースができるよう道路整備やイベントしてほしい	
・コース映像とともに説明があり、実際に走っている様子をイメージでき、楽しみになりました	
・コース動画が良かった。質問タイムがもっとであると良かった	
見どころ	
・コースの見どころ	・みどころになる場所
・見どころやスピードなどの話	・ロードレースの「かけひき」
自転車やロードレースに関すること	
・ロードレースの特徴	・ロードレースについて初めて知ることが多かった
・ロードレースの大変さが良く解りました	・ロードレースの魅力
・オリンピックは個人種目	・世界的に人気のある競技であること
・ロードレースは国をしょうかいする役目があること	・タイヤのホイール交換の早さに驚いた
・自転車の値段にびっくり!	・自転車ロード競技のことが良くわかった
・ヨーロッパ等で人気の競技だということ	・ロードレースは日本を紹介する競技だと言うこと
・自転車レースが初日に行われる意味のこと	・オリンピックで必ず初日に開催されるという話が印象に残った
・オリンピックはカテゴリー、ランクの件	・ロードレースがヨーロッパでは人気種目
・自転車ロード競技の内容とか醍醐味を知りたかった	・自転車ロードレースの速さに感銘した
・ロードレースの走り方やサポートカーについて、タイヤ交換が10秒程度であること	
オリンピックへの期待感	
・益々オリンピックが楽しみになりました	・本番が楽しみです。孫と一緒に応援します
・自転車ロードレースの応援気運が高まった	・本番の2020が楽しみになってきた
・ぜひ当日は応援に出かけたいです!	
・思い出に残るイベントになるなと感じました。また、道路整備が進めばいいと思いました	
・多摩市でのオリンピックなので大いに楽しみたい。お二人のトークがとても良かった	
ゲストに関すること	
・沖さん、土井さんの目線での五輪への思い	・ゲストが良かった
・アスリートの話が参考になった	・誠実に答えられた
・選手の声がきけたこと	・元選手のお二人の話が面白かった
・沖さんの本気のコメント(道路の悪さに関すること)	・沖さんのオランダチームサポート話!
・オリンピック選手の話が聞けてよかった	・元選手の経験を生で聞くことができ、競技の中身と内実がよくわかった
・土井さんの実際のレースコースをみての解説。さすがだと思いました	
・沖さんがきれいだった。引退のジャパンカップを見に行っただが、その時はサッカーの澤さんみたいにりりしいと思った。	
・トップアスリートの話をきけてよかった。	
本トークイベントに関連すること	
・自転車競技についての認識が深まった	・時間的にもちょうどよかった
・とてもわかりやすいトークで楽しめた	・トーク全般

・いろいろな話が聞けて楽しかったです	・全てです
・楽しかったです	・ポイントが理解できた
・くわしく説明していただきありがとうございます。感謝しております	・楽しいトークイベントでした。ありがとうございます
・もう少しカジュアルにラフにして良いと思う	・多摩市がとても真剣にオリンピックに向き合っているのが伝わってきた
・質問コーナーにもっと時間があると良いと思った	
・自転車ロードレースを知る上での知識や面白さをゲストの方々から聞くことができ、貴重な時間となりました	
・私は向かって右席にいたが、ゲストの2人の顔が見えなかった。司会者ばかりが見えた	
その他	
・多摩市は重要な役割を持っているということがわかった	・自転車の町！いいかも
・国土館大と市との協働が深いこと	・自転車に乗りながらトイレを済ませることには驚いた
・世界が多摩を見ている	・多摩地区が自転車競技に適した美しい街だと再認識しました
・観客に対する注意はありがたかった！！	・7月のテストイベントの説明
・選手の立場では、道路整備や運営に不安。危機感が非常にあると感じました。本日出た要望などできるだけ対応されるように望みます。道路が悪いと骨折・ケガがおきて市のイメージが下がっちゃいます	
・多摩市が「自転車のまち」になってほしいという選手の言葉が印象に残りました	

表4 その他の意見や感想（本人記述のまま）

ゲストに関すること	
・プロのロードレーサーの貴重な話が聞けて満足しました	・土井さん、DAZN解説ががんばって！
・沖さんのお話がききたくて参加しました。ズバズバ意見を言う姿が選手時代をホフフツとさせてかっこよかったです。トークでも出ましたが、もっと道路の整備をおねがいしたいです	
多摩市の道路について	
・道路の整備を完全にして、事故が起きないようにしてほしい	・道きれいにしてください
・多摩市内の道路に自転車の通行帯などの設置が進めばいいと思います	・オリンピックの為に是非 道路の整備をお願いしたい
・尾根カンに自転車通行ラインを引いてほしい（ガードレールをどけてほしい）	
本トークイベントに関連すること	
・今後も何度か、今日のようなイベントを企画してほしい	・オリンピックをみぢかに感じることができました
・他の競技でも、専門家の声を聞きたくなった	・質問したかった！残念
・挨拶は短く	・観る場所が道路のどの辺りになるのかを教えてください
・質問コーナーにもっと時間を取ってほしい	・質問ができなかった
・大変たのしく聞くことができました。関係者の皆様、ゲストのお2人 ありがとうございます	
・自転車に全く興味がなかったのですが、今日参加させていただきワクワクした気持ちになり 自転車に乗りくなりました	
・実際のコースのレイアウトをみれて勉強になりました。土井さんのトーク、深みがあって、勉強になりました	
・幼児がうるさい！！ 入場禁止すべき！！ 受付の名前区分（2組）を明示すべき！！ 道理を十分に！！	
・司会の方が話す時間が多く、ゲストにもっと自由に話してもらった方が良いと思う。質問は適当に色んな人に振れるよう仕切ってください。1人1つとか	
・自転車で来たのですが、駐輪場が良くわからなかった（不親切）（ロードバイクやクロスバイクが止めにくい）	
今後のリクエスト	
・パラサイクリングの野口佳子さんの講演があれば聞いてみたいと思います	・マラソン選手、箱根駅伝
・オリンピックの理解。教育理解の普及をはかって下さい	・イチローをよんでほしい
・新城幸也選手のトークショーが見たい	・多摩市にゆかりのある選手の話聞いてみたい
・柔道井上監督講演会	・栗村修さんをお願いしたい
・シッティングバレー	・講演会があると良い
・もう一度 オリンピック開催前にやって欲しい（盛り上がり欲しい）	
・コースの試走会（一般の人がコースを走れる会）などがあれば楽しいし盛り上がりと思いました	
質問事項	
・トップ～ラストの選手が通過するのにどれくらいかかるのか？（多摩市内で）	
その他	
・家の近くなので応援します	・ボランティアとしても参加したい
・まず7/21が楽しみです	・各自治体はもっと宣伝するといいたいと思う
・多摩市内のコースは知っている所ばかりなので明日車で走ってみます	・国土館の皆様、有難うございました
・多摩市でロードバイクのイベントがあったら参加したいです	
・今自転車に乗っていませんが、道整備されたらサイクリングしたいなあと思いました	
・ゲストのテーブルに水がなくて、（司会者はあった）気になりました。またこのようなイベントをひらいて盛りあげてってください！ありがとうございました！国土館の体操・新体操選手。新城幸也さん、サッシャさん、女子選手	

4.3 特別展の内容

特別展は、つぎの事柄を達成することを目指して開催された。1) トークショーと同様に、来場者が自転車や自転車ロードレースに興味・関心を抱けるようにすること 2) 来場者がオリンピック・パラリンピックムーブメントに興味・関心を

抱けるようにすること 3) 国士舘大学及び多摩市の取り組みを多摩市内において周知すること。

2日間の合計来場者数は延べ318名であり、3月16日(土)には213名、17日(日)には105名が来場した。主な展示品は、(表5)に示した。

表5 特別展における展示品の一覧

展示品名	提供・協力
聖火リレートーチ：1964東京夏季大会	国士舘大学：関係者
聖火リレートーチ：2004アテネ夏季大会	
聖火リレートーチ：2010バンクーバー冬季大会	
聖火リレートーチ：2012ロンドン夏季大会	提供：日本オリンピック委員会 (JOC)
聖火リレートーチ：2016リオ夏季大会	協力：日本オリンピック・アカデミー (JOA)
聖火リレートーチ：2018平昌冬季大会	
オリンピックムーブメントに関する説明や情報が記載されたポスター <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック聖火と聖火リレー ・科学技術の進歩と聖火リレー ・オリンピックと芸術 ・オリンピックと文化プログラム 	日本オリンピック・アカデミー (JOA)
ロードレースバイク	日本競輪学校
オリンピック聖火リレー及び自転車ロードレースに関するパネル	フォート・キシモト
オリンピック・パラリンピックフラッグ	東京都
多摩市の航空写真	多摩市
国士舘大学：オリンピック・パラリンピアンポスター (サイン入り)	国士舘大学
過去から現在に至るまでのオリンピック・パラリンピック競技大会ポスター	
ワットバイク	
日本において開催された過去のオリンピック競技大会：記念メダル	国士舘大学：関係者
諸外国のオリンピック委員会・オリンピックアカデミー：ピンバッジ	
諸外国のオリンピック委員会・オリンピックアカデミー代表者：ウェア	
国際ピエール・ド・クーベルタン委員会：DVD	
『ピエール・ド・クーベルタン 過去、そして現在』	
オリンピック・パラリンピック教育：関連資料	

4.4 特別展に関するアンケート調査結果とその分析

(1) 参加者の属性

参加者は、女性に比べて男性が多く、62.3%を占めた（図9）。年代別では、50代と40代が最も多くそれぞれ22.6%であり、40代～70代の参加者が全体の75.9%を占めた（図10）。

(2) 来場者が興味を抱いた展示物

来場者が興味をもった展示物として最も多かったのは、「聖火リレー：トーチ」であり、25.8%を占めた。その次に多かったのは、「多摩市の特大写真」（15.0%）、及び「自転車ロード競技のパネル」（14.7%）であった（図11）。また、次の機会に見てみたいと回答した展示品を集約・分類し、（表6）に示した。

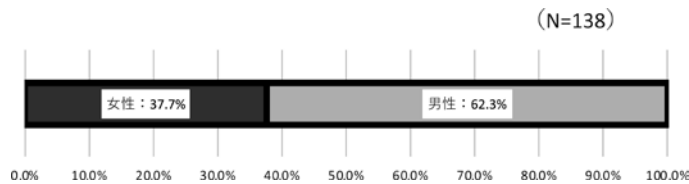


図9 参加者の属性（性別）

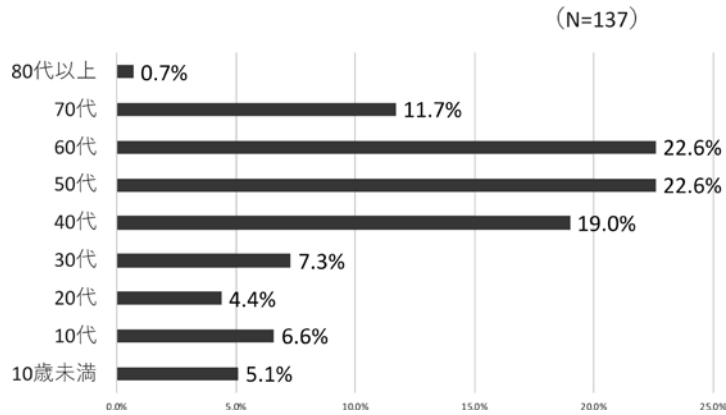


図10 参加者の属性（年代）

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした大学と地方公共団体における連携事業の成果と課題 11
 —自転車競技ロードレースに着目したトークイベントを事例として—

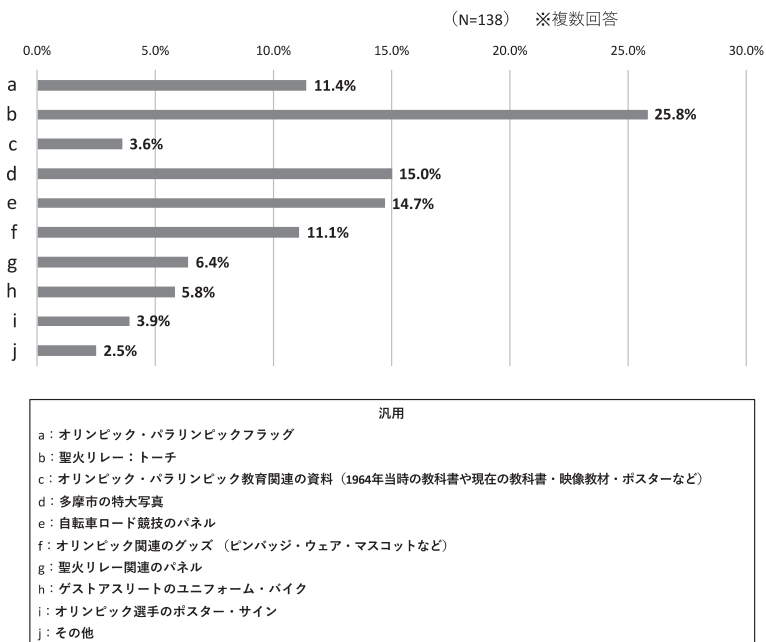


図11 来場者が興味を抱いた展示物

表6 次の機会に見てみたい展示品（本人記述のまま）

自転車・ロードレースに関するもの		
・TTバイク	・レースの映像、選手のインタビュー等	・他の自転車（バラやBMX）
・自転車ロード参加選手の紹介 応援の見どころ	・パラリンピック選手用自転車及びハンドル関係	・ロードレースのサポートカー
・ロードレースのパネルを充実させてほしい、沖さん、飯島さんの現役の時が見てみたい		・MTB
・ロードバイクにはどんな種類があるのか展示してほしい		
その他		
・マラソンなどの歴代優勝者の写真	・ユニホーム（各国の）	・選手の金メダル
・選手のサイン	・メダル	・ポッチャ
・サッカーボールのデザインが見たいです	・1964 TOKYO 当時の写真	・選手村での食事、それに関連した話
・水泳・サッカー車イスバスケット	・各種競技に使用する道具、機材	・実際の映像が流れているとよいと思いました
・オリンピック、パラリンピックのパネルや資料	・立体的なパネルなど	・競泳用の水着
・聖火台（レプリカでも）、ユニフォーム	・プレスの取材班	・スケート、水泳
・水泳の展示会	・陸上競技関係	・翻訳機
・スタジアム模型	・各競技の結果	・ペッパーくん（多言語を話せる）
・アスリートの身近なものや、練習用具など	・競技用車いすの展示	・パラリンピック関連の用具
・選手の等身パネル	・歴史（オリ・パラ）	・今回同様で良いと思います
・マラソン、駅伝	・他の種目の機材	・オープニングショーの情報
・開会式の解説ビデオやパネル	・S39年の東京オリンピックでの競技や建物のクローズアップ写真	
・テニス	・今までにオリンピック・パラリンピックでメダルを取ったことがある人の写真	
・今までのオリンピック、パラリンピックの関連グッズ		
・東京オリンピック1964の映像（札幌冬季、長野冬季）も		
・日本で以前行ったオリンピック、パラリンピックについて		

- (3) 来場者が抱いているオリンピック・パラリンピックに対するイメージ
 来場者が抱いているオリンピック・パラリンピックに対するイメージを集約・分類し、(表7, 表8, 表9)に示した。
 なお、この設問は、今後、国士舘大学と多摩市

表7 オリンピックに対するイメージ (本人記述のまま)

祭典		
・祭典	・人類の祭典	・スポーツの祭典
・平和の祭典	・世界的スポーツの祭典	・世界の祭典
・世紀の祭典	・スポーツの祭典	・文化の祭典
・スポーツの祭典の最高峰	・スポーツの祭典、若者のつどい	・日本が1912年から参加したスポーツの祭典
イベント・舞台・大会		
・世界最高の競技者によるイベント	・世界の人たちが一度は夢見る舞台	・スポーツの大会
・世界最高の舞台	・最大のイベント	・超国際的なイベント
・アスリートだけでなく、観戦者も楽しめる世界最大のスポーツイベント		・大きな大会、さすがしい
・スポーツの総合イベント。普段見られないスポーツの世界大会をまとめて見れる		・世界最大のスポーツイベント
4年に1度		
・4年に1度の祭てん	・4年に1度の集大成。	・4年に1度の大舞台。みんなのあこがれ
・4年に1回の大会 (スポーツ)	・4年に1度	・4年に1度のスポーツの祭典
・4年に1回のスポーツ	・四年に一度の大イベント	・4年に1度しかないチャンス
・4年に1度の発表会		
平和		
・平和	・平和の象徴	・平和、力
・世界平和のお祭り	・世界中の注目、平和のシンボル	・世界の平和、協調
・国際平和	・スポーツを通じての世界平和	
メディア		
・テレビで見るもの (混んでいる所は行きたくない)	・商業化とメディア	・企業宣伝が入りすぎ
・コマーシャル		
盛大・壮大		
・盛大	・世界の大きな大会	
選手の卓越性		
・各競技の世界レベル	・強い	・特別な人達のもの
・世界最高峰の競技の場	・トップアスリートの挑戦	・トップ
選手・アスリート		
・アスリート	・超一流選手	・アスリートの力を発揮する場所
・アスリート達の最高の舞台	・活躍の場	・世界の一流選手
勝負		
・勝負、世界	・国を超えた勝負	・世界一をあらそう
・戦い的な感じ	・トップアスリートの戦いの場	
・参加も重要ですが、勝負のかけひきの見応えが楽しみ		
努力・精一杯		
・努力、精一杯	・才能、努力	
国際性・調和		
・世界中の仲間	・華やかさ、国際性	・世界が一つになっている
・外国との交流 (スポーツを通じて)	・世界の力	
競技種目に関すること		
・マラソンに醍醐味あり	・野球	・いろいろなスポーツに親しんで興味を持てる
その他		
・みんなの笑顔	・国民を楽しませてくれる	・ワクワクする
・商業主義	・たのしみです	・新しい選手が出てくる
・熱いファンなどが多くもり上がる	・参加してみたい (かっこいい) というイメージ	・選手のみなさんみたいな、ステキな人になりたい
・希望	・けがをしていない人がでる大会	・真剣
・あまり見ていないからわからない	・金かかりすぎ	・くにをせおっている
・経済発展	・公平	・強く、元気に
・世界の人類の極限	・ゴールドメダル	・未来
・普段はスポーツに関心がなくても、特別です	・スポーツ	
・クーベルタン男爵の精神に「参加すること」の意味に感銘を受けた		
・イメージはあまりない。東京オリンピックより、もっといろいろなスポーツの活躍の姿かな		

がオリンピック・パラリンピックムーブメント及 てた事業をより活性化させていくために設定した。
 びオリンピック・パラリンピック教育に焦点を当

表8 パラリンピックに対するイメージ（本人記述のまま）

祭典		
・ 人類の祭典	・ 祭典	
・ 障害がある人も分け隔てなく参加できるスポーツの祭典		
イベント・舞台・大会		
・ 世界最高の競技者によるイベント	・ しょうがい者の人たちのスポーツ大会	・ 誰もが参加できる（障害を持った人が）舞台
・ ハンデのある人がむしろすごい運動能力を発揮するイベント		・ 体が不自由な人のためのスポーツの大会
・ 体にしょうがいがある人でも目指すことができる世界のぶたい		・ ハンディキャップの人達の最大のイベント
・ 障害を持った人々が戦える最大のスポーツイベント（人々に夢を与える）		・ アスリート達の最高の舞台
・ けがをしている人がでる大会		
4年に1度		
・ 4年に1度の大会。すばらしい人が出る	・ 4年に1回のスポーツ	
平和		
・ 平和	・ 平和の象徴	・ 世界平和
メディア		
・ メディアのとり上げが少ない	・ テレビでもっと流せばええと思う	・ テレビで見るもの（混んでいる所は行きたくない）
選手の卓越性		
・ 超人的な動き	・ すごい	
勝負		
・ 勝負、世界	・ しょうがいのある人たちがたたかうもの	
その他		
・ あまり見えていないからわからない	・ 長野パラリンピック	・ がんばっている選手の応援をしたい！
・ 人類愛	・ 美しい	・ 種目がわかりづらい
・ 活躍の場	・ みんなの笑顔	・ 見たことがない
・ 公正、公平	・ 以前にくらべアスリートが明るく前向きです	・ 健康的で良い
・ 尊い	・ 知り合い卓球のコーチに色々おしえてもらいました	・ 水泳競技に関心あり
・ パラリンピックそのもののふきゅう	・ オリンピックに負けない！！精神	・ ギズ、車イスの最先端
・ 未来	・ 東京オリンピックで初めてオリンピックと同時にした	
・ アスリート	・ オリンピックとちがいがいしょもくが少ないがもり上がる	

表9 パラリンピックに対するイメージにのみ頻出した回答（本人記述のまま）

障がいに関する理解及び偏見の超越、打破	
・身障者への理解	・偏見のない世界
・障害者競技とは思えない	・障害者スポーツの振興と理解
・障害への偏見をなくす機会	・障害者たちでもスポーツをできる
・障害のある方への理解を深められる。勇気をもらえる	
・障害のある人でも出来ることがたくさんあるということを知る	
努力・がんばる	
・努力	・がんばる
・がんばる姿	・がんばっている、明るい
・頑張り、努力	・努力の結晶
・努力の賜につきる	・障害をもっていても頑張っている姿
・身体不自由でもガンバルチカラ	・みなさんががんばってる
・障害を乗り越え頑張って競技をしているイメージ	
・障害があってもあきらめず努力している選手の人生観が見られる	
チャレンジ・挑戦	
・可能性へのチャレンジ	・チャレンジ
・超える	・挑戦
・人の無限な力	・限界への挑戦
・不屈の闘志	
希望・可能性	
・障害のある人ない人への希望を与える	・人間の可能性、力の素晴らしさ
・希望	・元気いい、力強い
前向き・一生懸命	
・一生けんめいさ	・皆さんとても前向きで、感動します
マイナーな感覚	
・まだマイナーな感じ	・まだまだこれから
・最近脚光を浴びたイメージ	・最近話題によくあがる
カテゴリーの分かりづらさ	
・障害の程度が微妙・・・	
・競技のカテゴリーのわかりにくさが競技をみるときにわかりにくい	

(4) オリンピック・ムーブメントに関する知識の習得環境・時期及び内容など

来場者のオリンピック・ムーブメントに関する知識の習得環境として最も多かったのは、「学校

で学んだ・聞いた」であり、50.4%を占めた。その次に多かったのは、約36.2%を占めた「ない」であった（図12）。

また、オリンピック・パラリンピックについて

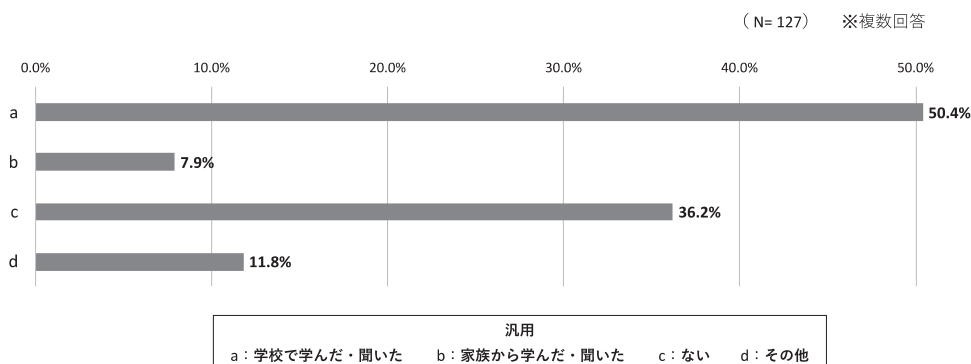


図12 オリンピック・ムーブメントに関する知識の習得環境など

学習した人は51.4%で過半数に達していた。その 占めた (図13)。学習内容は、(表10) に示した。中で最も多かったのは「小学校」で、約18.7%を

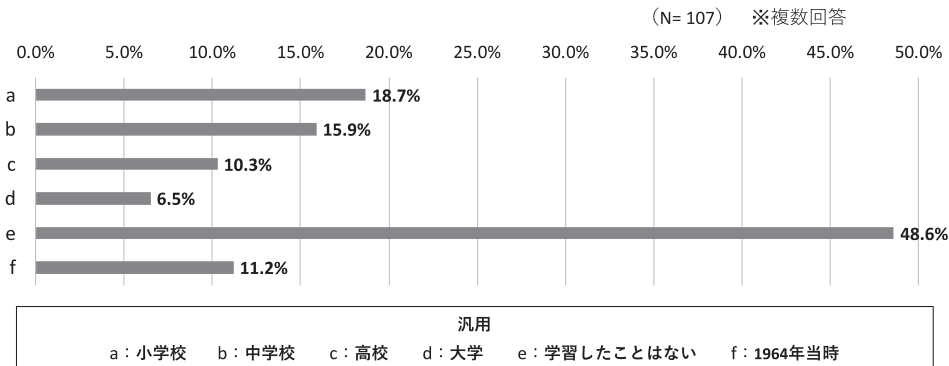


図13 オリンピック・パラリンピックについて学習した時期とその内容など

表10 オリンピック・パラリンピックに関する学習の内容 (本人記述のまま)

現在 (2019) の年代	学習した当時	1964年当時	内容
70代	高校		競技の見所や一流選手の人物像 学校の行事で競技見学に行ったか、種目すら？覚えていない
	中学校	○	東京オリンピックの時のマラソンを応援しました。見に行きました 学校では特別な授業などなかった
60代	高校		東京にオリンピックがくるということでマラソンのアベベの？2回大会テレビで拝見しました
	中学校・高校		商業主義のハイジヨ
	中学校	○	1964年の東京オリンピックと1988年のソウルオリンピックを実際に見ました 2020年の自転車ロードレースが我が町を通過するのを楽しみにしています
		○	世界の中における日本の位置付け 上にも書きましたが、前はスポーツに関心がなくて、ただ街の変化等はひひしと感じました オリンピックのカヌーの競技を相模湖に見に行く 忘れました
		○	小学校1年の時に在住の大阪から、東京の親戚宅に泊まって見に来ました。 記念映画を見に行った
	回答なし	○	あまり覚えていない 学校で競技を見に行った 2020年まで生きていたら2回体験できるので楽しみ
50代	回答なし		世界平和を象徴するイベント。五輪の旗の意味 当時4歳であまり覚えていない
40代	小学校		多分 みんなでマスコットの候補を選んだ ロサンジェルス五輪の全体
			30代
20代	高校		クーベルタンとオリンピックの発祥について 4年に1度行われる オリンピックの語源、平等の意味が含まれていること オリンピック・オリンピアン精神について 東京オリンピック・パラリンピックのキャラクターを選んだ。学校の先生がやっている高とびについて話を聞いた ポッチャを体験し、むずかしかったが楽しかった 最近のオリンピックについて学んだ ゴールボールをたいけんしたことがある
10代	高校・大学		
	中学校		
10歳未満	小学校		
			学校でやったがきいていなかった。ウェルチエアラグビーは見たことがある

5. 結論

本研究の目的は、国士舘大学と多摩市が大会組織委員会公認プログラムとして主催したトークイベントの成果と課題を明らかにすることであった。イベントの内容と参加者に実施したアンケート調査の結果、以下の事柄が明らかになった。

(1) トークショーの成果

トークショーにおいては、アンケート調査結果より、全体の97%から「大変満足できた」、「満足できた」とする回答を得られた(図7)。また、全体の94.2%から、本トークショーに参加したことで自転車ロードレースに対する理解度が「大いに深まった」「深まった」とする回答を得られた(図8)。

参加者がトークショーに参加した最大の理由は「多摩市がオリンピック自転車ロード競技のコースに決まったから」であったが(図6)、トークショーに参加して印象に残ったこととして多かったのは、多摩市のコースに関することや、自転車やロードレースに関することであった(表3)。

これらのことから、多くの人々が自転車や自転車ロードレースに興味・関心を抱けるようにすることを意図した本トークショーは、自転車ロードレースの魅力や楽しみ方、多摩市内のコースの見どころを伝えることで、参加者が求め・期待した事柄に対して大きく寄与することができたと言えよう。

「益々オリンピックが楽しみにになりました」、「本番が楽しみです。孫と一緒に応援します」などといった回答からは(表3)、東京2020大会へ向けた気運の高まりを読み取ることができた。

(2) 特別展の成果

特別展においては、アンケート調査の結果より、回答した全ての来場者がいずれかの展示品に興味を抱いたことが明らかとなった。そこでは、自転車や自転車ロードレースに関する展示品に留まらず、来場者が最も興味を抱いた聖火リレートーチ

なども展示することができた。

これは、日本オリンピック・アカデミー(JOA)及び日本オリンピック委員会(JOC)との協力によるものである。来場者が聖火リレートーチに触れたり記念撮影をする際には、JOAが作成した聖火と聖火リレーの歴史などに関するポスターの内容や、各トーチに込められたメッセージをスタッフが紹介した。このことは、オリンピック・ムーブメントにおける競技以外の側面を来場者に周知できたという点で大きな成果となった(表5、図11)。

(3) 本トークイベントの成果と課題

大学が地方公共団体と連携したことにより、大学は従来より有していた広報媒体や地域の人々との交流関係を越えたより多くの人々との関わる接点を得ることができた。このことは、当日の準備・運営等に携わった学生にとっても貴重な学びの場ともなり、大変有意義であった。

アンケート調査の結果(表4)においても明らかとなったように、本トークイベントは、開催時間に余裕が無いものとなってしまった。今後は、参加者からの質問を十分に受け付ける方法を工夫するとともに、イベント全体のタイムスケジュールを検討していくことが課題となった。

6. おわりに

トークショーにおいて沖氏より発せられた勝敗や競技を越えた国境を問わない友情やリスペクトの精神は、今後、オリンピック・パラリンピック教育を実施・展開していく際の教材として取り上げることができよう。

東京2020大会を契機に、これまでは接点が多かった組織間(大学及び地方公共団体内における部署間の交流も含め)に意見交換や議論、情報共有などの機会がもてたことは大変有意義であった。こうした事象は、オリンピック・パラリンピック競技大会開催がもたらすレガシーと言える

のではないだろうか。

今後もオリンピック・パラリンピックを単なる世界的な競技大会としてのみ捉えるのではなく、多様なムーブメントを起こすことができる契機として捉えること、そして、スポーツの教育的な意義・価値・知識に関する理解や、地域スポーツの振興や市民の健康増進につながる事業を引き続き、連携していくことが重要であると考えられる。

注

- 1) 大会組織委員会は2016年10月より、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら大会に向けた参画・機運醸成・レガシー創出に向けたアクションが実施できる仕組みを構築している。参画プログラムとは、東京2020大会の大会ビジョンのもと、スポーツだけでなく、文化芸術や地域での世代を越えた活動、被災地への支援など、参加者自らが体験・行動し、未来につなぐプログラムである。大会組織委員会によって認証された組織・団体は、オリンピックおよびパラリンピックのマークなどを使用することができる。なお、大会組織委員会は、プログラムのテーマとして次の8つを掲げている。1) スポーツ・健康(楽しく体を動かそう) 2) 街づくり(みんなに優しい都市に) 3) 持続可能性(未来につなげよう) 4) 文化(新しい日本を発見) 5) 教育(新たな自分を見つけよう) 6) 経済・テクノロジー(日本の最先端の技術を発信) 7) 復興(今こそ絆を深めよう) 8) オールジャパン世界への発信(みんなの想いを一つに!)¹¹⁾(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、ホームページ)

引用・参考文献

- 1) 首相官邸ホームページ「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて～2020年とその先へ～」。<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/tokyo2020/torikumi.html>, (2019年12月15日参照)
- 2) スポーツ庁ホームページ「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業(オリ・パラ教育)」。http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop08/list/detail/1407880.htm, (2019年12月15日参照)
- 3) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ「大学連携の取り組みについ

て」。 <https://tokyo2020.org/jp/get-involved/university/activity/>, (2019年12月15日参照)

- 4) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ「東京2020参画プログラム」。<https://participation.tokyo2020.jp/jp/>, (2019年12月15日参照)
- 5) 来田亨子, 重城 哲(2015)「組織委員会の大学連携事業とオリンピック・パラリンピック教育プログラム(東京オリンピック・パラリンピックと大学連携, シンポジウム, 共催企画, 2020東京オリンピック・パラリンピックと体育・スポーツ科学研究)」。日本体育学会大会予稿集, P.13.
- 6) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ「【内閣官房ホストタウンアクション】ベラルーシ新体操ナショナルチーム事前合宿『SAKURA CAMP 2019』」。<https://participation.tokyo2020.jp/jp/event/detail.html?id=a090I00001IID40LQAT> (2019年12月15日参照)
- 7) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ「スポーツフェスタin白山～東京2020開催まであと1年!～」。<https://participation.tokyo2020.jp/jp/event/detail.html?id=a090I00001HsFLzQAN>, (2019年12月15日参照)
- 8) 国士舘オリンピック・パラリンピック特設サイト「多摩市との連携協定」。<https://www.kokushikan.ac.jp/tokyo2020/cooperation.html>, (2019年12月15日参照)
- 9) 多摩市ホームページ「多摩市と国士舘大学との東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組に関する連携協定」。<http://www.city.tamalg.jp/0000001905.html>, (2019年12月15日参照)
- 10) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ「ロードレース コースマップ等」。<https://tokyo2020.org/jp/games/sport/olympic/road-cycling/road-detail/>, (2019年12月14日参照)
- 11) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ「東京2020参画プログラムとは」。<https://participation.tokyo2020.jp/jp/about/>, (2019年12月15日参照)

東京2020オリンピックに向けた

公益プログラム
スポーツ・健康

「自転車ロード競技の魅力に迫る」 トークイベント in TAMA

～世界のONEKAN オリンピックへの快走～



東京2020オリンピック開催まで、来る3月12日であと500日となりました。東京2020オリンピックで都内最長11.8kmの市内コースが決定した自転車競技ロードレース。7月21日(日)に「東京2020テストイベント—自転車競技 ロード(仮)」の開催も決まり、世界のトップレーサーが市内オリンピックコースを疾走します。

そこで国際経験豊富なトップアスリート2人をお招きした「トークショー」を開催し、競技の基礎知識やレースの楽しみ方、市内おすすめ観戦スポットなどを語っていただきます!

また、自転車競技やオリンピック・パラリンピックに関連した展示を行う「特別展」を同時開催します。



○ゲストアスリート○

トークショー



沖 美穂氏

元プロ自転車ロードレース選手
2000シドニー・2004アテネ・
2008北京オリンピック
自転車女子個人ロードレース
日本代表



土井 雪広氏

元プロ自転車
ロードレース選手

日時 平成31年 **3月16日** (土) 午後2時～3時30分 (開場 午後1時30分)

会場 パルテノン多摩 小ホール 定員 250名 (事前申込制・入場無料) 手話通訳・要約筆記あり

特別展

日時 平成31年 **3月16日** (土) 午後1時～5時、**17日** (日) 午前10時～午後5時

会場 パルテノン多摩 特別展示室 入場無料

ロードバイク、航空写真 市内コースの紹介)、オリンピック・パラリンピックフラッグ、オリンピック聖火リレーーチ、その他オリンピック・パラリンピック関連の展示(予定)

お問い合わせ

多摩市くらしと文化部
オリンピック・パラリンピック準備室
TEL: 042-338-6947 (平日午前9時～午後5時)
Email: tm166200@city.tama.tokyo.jp

トークショーの
お申し込み方法は裏面へ

本事業は「多摩市と国士舘大学との東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組に関する連携協定」に基づき実施するものです。

主催 多摩市、学校法人国士舘



公益プログラム
 スポーツ・健康

東京2020オリンピックに向けた

“自転車ロード競技の魅力に迫る” トークイベント in TAMA

～世界のONEKAN オリンピックへの快走～

ゲストアスリート・プロフィール



沖 美穂 氏 [おき みほ]

公益財団法人 J K A / 公益財団法人日本自転車競技連盟女子強化育成部会員
 2000シドニー・2004アテネ・2008北京オリンピック自転車女子個人ロードレース
 日本代表
 1974年生まれ/北海道出身

1996年にスピードスケートから自転車競技に転向。1998年から全日本自転車競技選手権大会11連覇、2000シドニー・2004アテネ・2008北京オリンピック3大会連続出場を果たす。2001年にフランスのプロチームに所属し、日本人女性初のプロロードレーサーとなる。

2006年ワールドカップ第1戦ではアジア人最高位の2位となった。2008年北京オリンピック後に引退し、JOCスポーツ指導者海外研修を経て、競輪の統括団体である公益財団法人 J K A とアドバイザリー契約を交わす。また、公益財団法人 J K A 日本競輪学校では教官として女子生徒の指導にあたる。2017年4月からは順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程に在籍し、2019年3月修了見込。

土井 雪広 氏 [どい ゆきひろ]

2012年全日本自転車競技選手権大会ロードレース 優勝
 1983年生まれ/山形県出身

小学生のときにアルペンスキーのトレーニングの一環として自転車に乗り始め、中学生で本格的にロードレースに転向。2004年にシマノレーシング(後のアルゴス・シマノ)でプロ入りし、2005年からは主に欧州でレースに参戦する。2008年ブリクシア・ツアー第一ステージにてチームトライアルながらステージ優勝。2011年は世界三大自転車ロードレースの一つであるブエルタ・ア・エスパーニャに日本人として初めて出場を果たす。2012年には全日本自転車競技選手権大会ロードレースで優勝を飾った。2016年にマトリックス・パワータグに移籍し、2017年には国内最高峰ツアー「Jプロツアー」のチーム年間総合優勝獲得に貢献した。2018年に現役引退。



トークショーのお申し込み方法

お申し込みは往復はがきで郵送、または電子申請のどちらかより、お申し込みいただけます。

往復はがきの場合

申込期間：平成31年2月5日(火)～2月28日(木) 消印有効

下記①～⑥の必要事項を記入の上、往復はがき(1人1枚)を下記宛先まで郵送してください。

①住所 ②氏名 ③年齢 ④電話番号

⑤車いす利用の有無 ⑥付き添いの有無 ※有の場合は氏名も記入

宛先 〒206-8666 東京都多摩市関戸 6-12-1
 多摩市役所 オリンピック・パラリンピック準備室

電子申請の場合

申込期間：平成31年2月5日(火) 0:00～2月28日(木) 23:59

下記URLまたは右記QRコードより必要事項を入力の上、申請してください。



<http://www.city.tama.lg.jp/0000008155.html>

または

応募者多数の場合は「抽選」となります。結果通知は3月8日(金)頃までに郵送またはメールにてお送りいたします。

東京 2020 オリンピックに向けた
 “自転車ロード競技の魅力に迫る”トークイベント in TAMA
 ～世界の ONEKAN オリンピックへの快走～
 アンケート

*ご来場くださりありがとうございます。本アンケートによるご意見やご感想は、多摩市における今後のイベントの企画等に活用させていただきます。それ以外の目的で使用することはございません。お手数をおかけいたしますが、参加者の皆様の率直なご意見・ご感想をお聞かせください。

以下、1～8までの質問へご回答（1・7・8は記入、2～6は、該当箇所に）ください。

1. 性別

2. 年代

10歳未満 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上

3. 本トークイベントを何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

たま広報 多摩市公式ホームページ 回覧板チラシ 公共施設の置きチラシ
タウン誌（ミニコミ誌） ポスター インターネット 友人や知人等から聞いた
 その他（ ）

4. 本トークイベントに参加したいと思われた理由は何ですか？ ※複数回答可

多摩市がオリンピック自転車ロード競技のコースに決まったから 市内コース付近に住んでいるから
ゲストアスリートに興味があった 自転車競技に興味があった
オリンピックに興味があった パラリンピックに興味があった
 その他（ ）

5. 本トークイベントの満足度

大変満足できた 満足できた どちらとも言えない あまり満足できなかった
 その理由（ ）

6. オリンピック自転車ロード競技に関する理解は深まりましたか？

大いに深まった 深まった どちらとも言えない あまり深まらなかった
 その理由（ ）

7. 本トークイベントに参加して、印象に残ったことは何ですか？

（ ）

8. その他、何かご意見・ご感想がございましたらお聞かせください。

※本トークイベントの感想、今後のイベント（講演会・トークショーなど）で話を聞いてみたいアスリート、競技等々

東京 2020 オリンピックに向けた
“自転車ロード競技の魅力に迫る“トークイベント in TAMA
～世界の ONEKAN オリンピックへの快走～
【特別展およびオリンピック・パラリンピックムーブメントに関するアンケート】

*ご来場くださりありがとうございます。本アンケートによるご回答は、多摩市における今後のイベントの企画と、オリンピック・パラリンピックムーブメントの普及・推進に関する国土舘大学の研究に活用させていただきます。お手数をおかけいたしますが、ご回答のほどよろしくお願いいたします。

以下、1～8 までの質問へご回答（1・4・5・7 は記入、2・3・6・7 は、該当箇所に ）ください。

1. 性別

2. 年代

10歳未満 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上

3. 本特別展の展示コーナーの中で、興味をもてたものは何ですか？ ※複数回答可

- オリンピック・パラリンピックフラッグ オリンピック関連のグッズ（ピンバッジ・ウェア・マスコットなど）
聖火リレー：トーチ 聖火リレー関連のパネル
オリンピック・パラリンピック教育関連の資料（1964年当時の教科書や現在の教科書・映像教材・ポスターなど）
多摩市の特大写真 ゲストアスリートのユニフォーム・バイク
自転車ロード競技のパネル オリンピック選手のポスター・サイン
その他（)

4. 次の機会に見てみたいオリンピック・パラリンピック関連の展示品や、展示会場にあったらいいと思うものはありますか？

5. あなたは「オリンピック」および「パラリンピック」について、どのようなイメージをもっていますか？

オリンピックのイメージ：

パラリンピックのイメージ：

6. オリンピック精神（オリンピズム）や、オリンピック・パラリンピックムーブメント、クーベルタン（近代オリンピックの創始者）について、どこかで学んだり聞いたことはありますか？

学校で学んだ・聞いた 家族から学んだ・聞いた ない その他（)

7. 学校でオリンピック・パラリンピックについて学習したことがあれば、その内容を記入してください。

※1964年東京大会の頃を学校で過ごした方は、その欄にもチェックを入れてください。

小学校 中学校 高校 大学 学習したことはない ※1964年当時



トークショーの様子



特別展の様子